



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和3年11月22日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

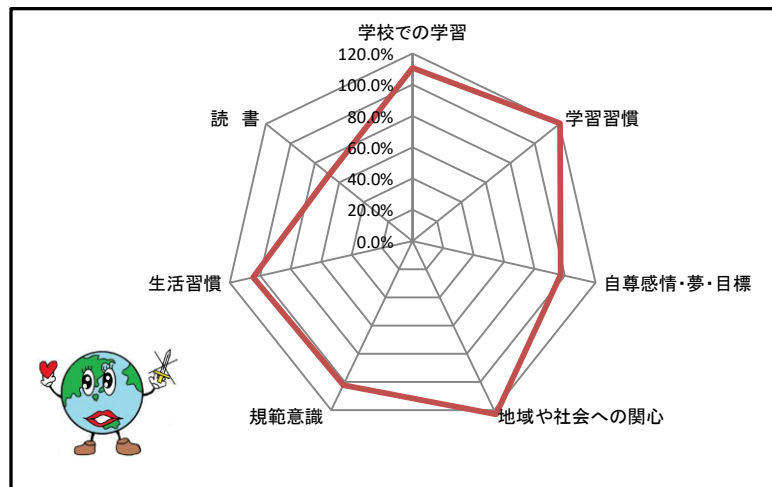
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	「読むこと」領域のみ全国平均正答率を下回っている。文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと、また、「書くこと」領域でも、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書く問題の正答率が低い。自分の考えをもつことや書くことに課題がある。	上回っている
数学	「図形」領域のみ全国平均正答率を下回っている。根拠を明確にして、ある事柄が成り立つことについて証明することや、資料の活用で、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する等、根拠を基に説明する力に課題がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均と同等であるが、「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、肯定的に回答した生徒の割合が、全国平均よりも低い。道徳の時間等を活用し、自尊感情を高める手立てが必要である。

・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対し、1時間以上読書をする生徒の割合が低い。学校の授業以外にも読書タイムを設定したりビブリオバトルを行うなどしたりして、本に触れる機会を増やす手立てが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「自分の考えを書く」「根拠を基に説明する」等、記述式の問題に課題があるため、「相手や場を想定しながらスピーチやインタビューを行う、手紙や電子メールを書くなどの活動」「証明するために必要な事柄を取り出し、筋道に沿って、証明を書く活動」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「尾倉ノート」1日1ページ学習を今後も継続して行い、家庭学習を習慣化し、基礎学力の定着を図る。

・総合的な学習の時間に活用している「読売ワークシート通信」を持ち帰らせ、文章を読む機会を増やすとともに時事ニュースに興味をもたせる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果に関する萩生田文部科学大臣コメント 2021/8/31

本日、令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を公表いたしました。年ぶりとなった今回の調査は、新型コロナウイルス感染症の影響下での実施となりましたが、各教育委員会及び学校等におかれては、後日実施の仕組みも活用いただき、大きな混乱なく実施できたものと認識しております。感染症対策を徹底されながら、本調査の実施に御協力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今年度の教科調査は、国語、算数・数学について実施し、小学校については新学習指導要領が全面实施されてから初めての調査でした。

教科調査結果を概観すると、改善の傾向が見られたものがある一方、依然として課題が認められるものがありました。具体的には、複数の文章や資料等を結び付けて必要な情報を見付けることや、日常の事象を表、式、グラフなどを用いて数学的に解釈したり説明したりすることなどに課題があることが明らかになっています。

また、学校及び児童生徒への質問紙調査の結果からは、

- ① 新学習指導要領に基づく主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組が引き続き進んでいること、
- ② ICTを活用した学習状況については、ICT機器の学習における活用が進みつつあるが、教職員と児童生徒がやりとりする場面ではまだ取組が十分ではないこと、一方で、児童生徒の学習におけるICT機器の活用への期待は非常に高いこと、
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響については、学校の臨時休業期間終了後の対応として、児童生徒の心身の状況や学習状況の把握、長期休業期間の短縮、補習の実施等、児童生徒の学びを保障するための懸命な取組が各学校等において行われていたこと、
- ④ 過年度と比較して、児童生徒の心理面に様々な変化が見られることや、特に校外における教員の研究会等への参加の機会や地域とのかかわりが減少していること

などが明らかになっています。

各教育委員会及び学校等におかれては、本調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てていただくようお願いいたします。

また、各教育委員会におかれては、首長部局等としっかりと連携を図り、児童生徒の学習環境の充実・支援に取り組んでいただくとともに、特に課題が見られる学校に対して、積極的に支援に努めていただくようお願いいたします。

なお、調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響に十分配慮を行っていただくようお願いいたします。

文部科学省としては、児童生徒の学力・学習状況の更なる向上・改善等を図るため、

- ① 新学習指導要領の趣旨の周知・徹底や調査研究の実施、調査結果を受けた指導改善に資する情報提供、オンラインも活用した教職員研修の充実等、新学習指導要領の着実な実施
- ② 1人1台端末の円滑な利活用の促進やGIGA StuDx推進チームによる情報発信、ICT環境の整備・活用に関する外部人材の活用等による支援、ICT活用に関する教員養成・研修の充実等、GIGAスクール構想の実現のためのハード・ソフト・人材一体となった学びの環境整備
- ③ 児童生徒の心のケアや感染予防対策を踏まえた職場見学、職場体験活動、地域との連携による多様な体験・交流活動の充実等、児童生徒の豊かな心をはぐくむための取組の推進
- ④ 小学校の教科担任制の推進や35人学級の計画的な整備、支援スタッフの充実等による働き方改革の推進等、新しい時代の学びに向けた教師等の指導体制の環境整備

等の取組を学校、教育委員会等の関係者と連携・協力して推進してまいります。

最後に、新型コロナウイルス感染症の影響下において、児童生徒の学びのために日々最善を尽くされている教職員の皆様方に対し、改めて、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。文部科学省として、引き続き、学校や教育委員会等への支援を全力で行ってまいります。教職員の皆様方の御理解・御協力を心よりお願いいたします。